

情報通信審議会 電気通信事業政策部会 接続政策委員会

(IP網への移行の段階を踏まえた接続制度の在り方について/
IP網へ移行後の音声接続料の在り方)

関係事業者ヒアリング 質問事項

2020年6月9日

KDDI株式会社

Tomorrow, Together おもしろいほうの未来へ。





質問 1 IP網へ移行後も継続する中継事業について、それはどのような接続形態か。中継が複数連なる等の様々なパターンが想定されるか伺いたい。

【回答】

- IP網への移行後も継続される中継型のサービスは、0AB0サービスと00XYサービス（国際呼を含む）になります。
- いずれも中継事業者が料金設定事業者で、中継事業者から発信側事業者及び着信側事業者へ接続料を支払う関係です。
- また、中継事業者が複数連なる接続パターンも基本的には発生しないと理解しています。



質問2 携帯電話網コストに対し、事業規模、保有周波数、割当て時期、各社サービスポリシー等のそれぞれが具体的にどのように影響するのか伺いたい。

【回答】

- ・ 事業規模、保有周波数、割当て時期、各社サービスポリシー等は、大なり小なり各携帯電話事業者網のコストに影響を与える可能性があると考えられますが、その影響は総合的に形成されるものであり、他社との比較において、それぞれが具体的にどのように影響するかは一概には言えないと考えます。
- ・ それぞれの項目について考えられる影響は以下のとおりです。

①事業規模

一般的には規模の経済が働き、事業規模が大きいほど網の効率化がなされる傾向にあるのではないかと考えます。一方で、効率の良い地域のみ集中して事業展開することで事業規模によらず効率的な網構築をすることも理論上可能と考えます。

②保有周波数

エリアの整備にあたっては、周波数が高いほど多くの基地局を要するとの考え方もありますが、保有周波数の高低にかかわらずトラヒックが多い場合は、基地局の増設が必要となる点を踏まえると、必ずしも保有周波数の違いだけが網のコストに影響を与えるものではないのではないかと考えます。

③割当て時期

一般的に時期が新しいほど最新の設備で網を構築できるため、低コスト傾向にあるのではないかと考えます。他方、構築時期が相対的に古いほど設備の償却が進み、コストは低下しているとも言えると考えます。時期の捉え方によって網のコストに与える影響の見方は変わるのではないかと考えます。

④サービスポリシー等

市場競争や利用者保護の観点から、各社において、エリアの広さ、エリア内での弱電界対策、屋内対策など通信品質の確保、設備障害発生時や急激なトラヒック変動発生時への設備対応の在り方などについて様々な考え方が存在し、それぞれが収益面に照らしバランスされていると考えており、コストへの影響は一概には言えないと考えます。



- 質問3 IP網へ移行後の音声通信サービスは、次の観点からそれぞれどうあるべきか伺いたい。
- データ通信サービスとの関係
 - ユーザ利便の向上
 - 社会インフラ

【回答】

- ・ データ通信サービスとの関係
SkypeやLINEなどの普及により、音声通信はデータ通信上の1アプリとしての性格を強めていくものと考えます。また、既存の音声トラフィックが減少傾向にある点を踏まえると、通信全体の中で占める地位も徐々に低下していくのではないかと考えます。
- ・ ユーザ利便の向上
各事業者は競争環境なども踏まえながら、今後もユーザー利便の維持・向上に向けた取り組みに努めていくものと考えます。
- ・ 社会インフラ
音声通信の地位が通信全体の中で徐々に低下する状況にあっても、誰でも使える双方向コミュニケーションの手段の一つとして、これまでどおりの役割を果たしていくものと考えます。